

平成29年8月14日～8月20日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について
（平成29年度第16報）

1. この期間(8月14日～8月20日)の全国の暑さ指数(注1)の観測状況について
この期間は例年暑さのピークの時期となりますが、6都市(*)の日最高WBGTの平均値は週前半までは、過去5年間の平均値以下となり、週後半にはやや高くなりました。

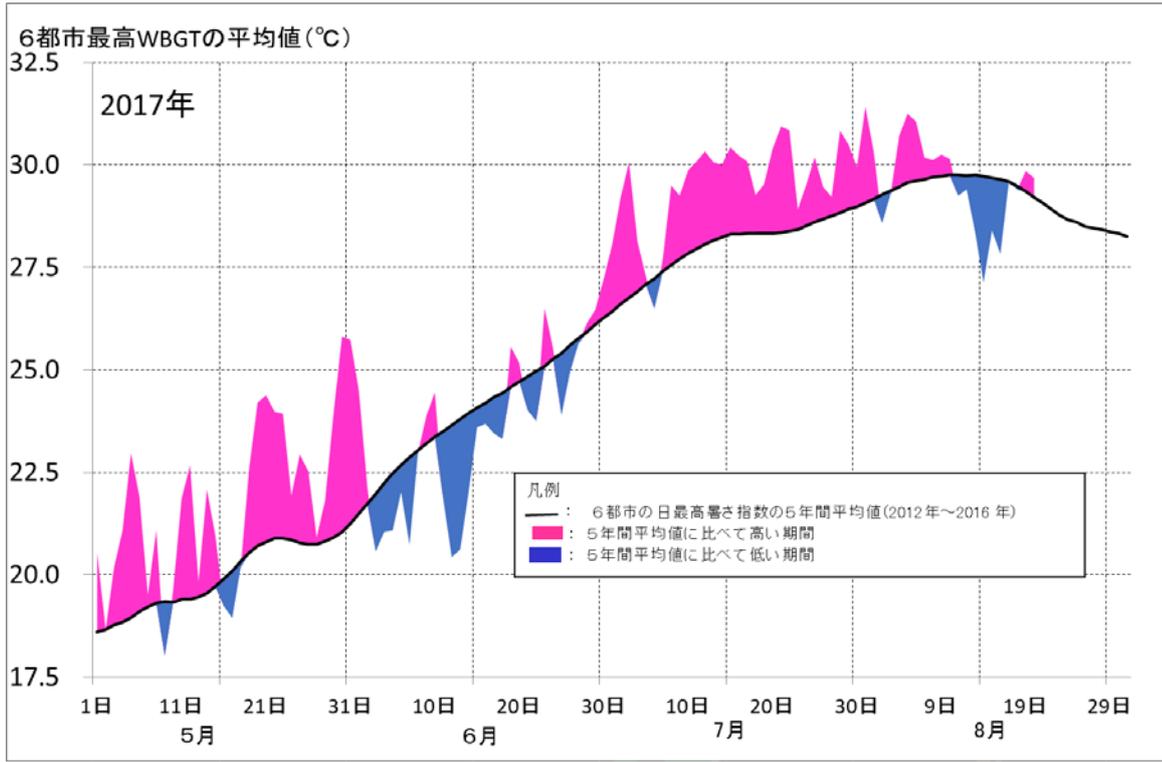


図 1-a 全国の暑さの動向の過去5年間の平均との比較
6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市

表 1-a 全国9都市の毎日の最高暑さ指数(8月14日～8月20日)

日	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島	6都市平均
14	23.1	23.7	26.4	25.3	28.1	28.5	26.8	27.7	31.1	27.1
15	23.8	22.4	28.4	27.4	26.0	28.5	28.3	31.8	30.2	28.4
16	23.2	21.6	26.9	23.1	28.2	30.2	28.0	30.6	32.0	27.8
17	22.4	26.0	29.6	27.6	29.6	30.9	29.0	30.8	32.2	29.6
18	23.2	23.7	28.1	28.9	29.3	30.0	29.4	30.7	31.4	29.4
19	24.6	22.0	28.5	30.0	30.2	30.3	29.3	30.8	29.8	29.9
20	24.8	22.8	27.8	28.2	29.7	30.9	29.4	32.1	30.5	29.7

表 1-b 全国9都市の1週間(8月14日～8月20日)の暑さ指数超過時間数

超過時間数	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島
31°C以上	0	0	0	0	0	0	0	4	17
28°C以上	0	0	11	10	27	42	27	54	75
25°C以上	0	2	50	58	81	108	90	140	155

(注1)9都市の暑さ指数は、環境省の黒球温度観測資料と気象庁の観測資料から推定した値です。
暑さ指数については参考資料をご覧ください。

2. 6都市の日最高暑さ指数(WBGT)と熱中症による救急搬送者数(全国)との関係

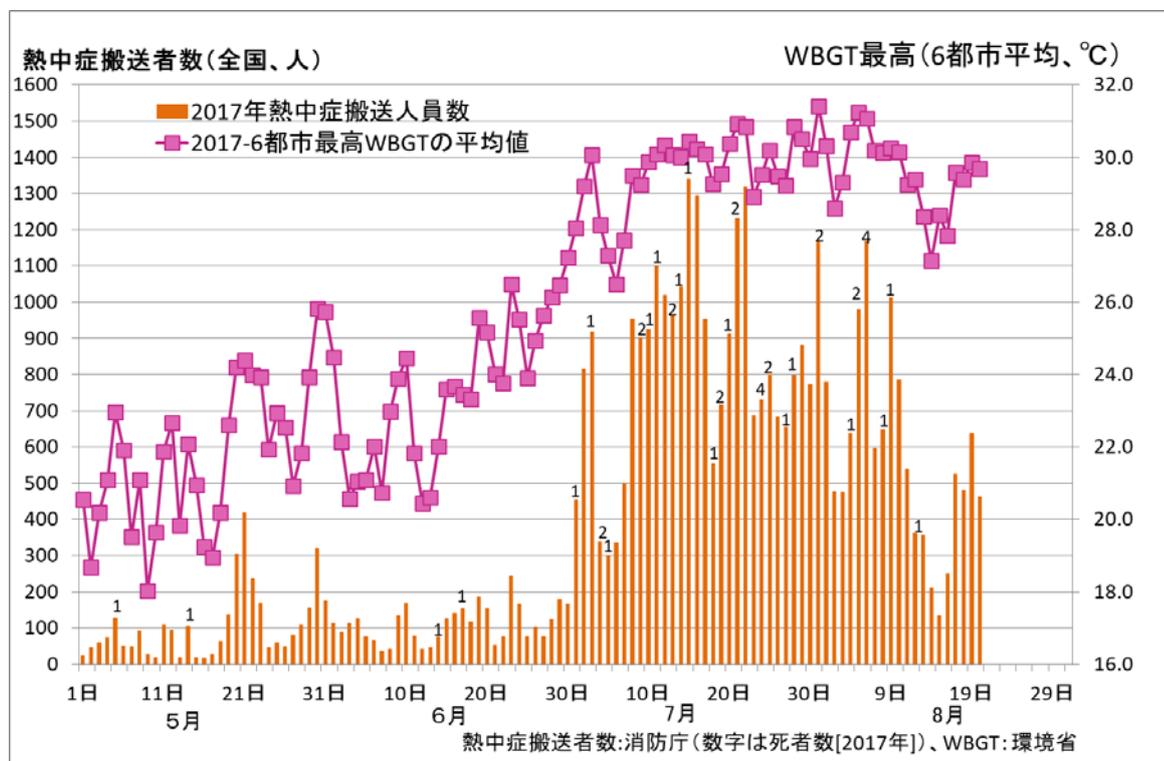


図2-a 6都市の日最高WBGTと熱中症搬送者数の推移

○この期間は例年暑さのピークの時期となりますが、6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、週前半ではおおむね過去5年間の平均値より低く推移し、28°C以下となりました。週後半は平均値よりやや高くなりました(図1-a参照)。全国9都市では福岡、鹿児島を除き31°Cを超えることはなく、特に札幌、仙台では23°C前後と低く推移しました(表1-a, b参照)。消防庁発表の速報では、熱中症による搬送者数はいずれの日も1日に千人以下で、死亡者はゼロでした。

3. 今後の見通しと注意点

○熱中症予防情報サイトによると、明日(24日)、明後日(25日)にかけては、全国的に広い範囲でWBGTが28°Cを超え、東日本から沖縄・奄美にかけて31°Cを超える地点も数多く予測されています。さらに、気象庁発表(8月16日11時時点)の週間天気予報によれば、「最高気温・最低気温ともに、北日本は、期間の前半は平年並か平年より高く、後半は平年並か平年より低い見込みです。東日本から沖縄・奄美にかけては、平年並か平年より高く、平年よりかなり高い所もある見込みです。」とされ、先週比較的WBGTが低かったところに、残暑が厳しくなる可能性がありますので、全国的に熱中症への厳重な警戒が必要です。

○湿度が高く晴れた日には、気温も高く蒸し暑くなります。引き続き、熱中症への厳重な警戒が必要です。室内では無理せずエアコンを使うこと、こまめに水分補給や休息をとることなど、体調管理には十分注意してください。

(参考)

「暑さ指数」について

熱中症を引き起こす条件として「環境」は重要ですが、我が国の夏のように蒸し暑い状態では、気温だけでは暑さは評価できません。熱中症に関連する、気温、湿度、日射輻射、風の要素を積極的に取り入れた指標として、暑さ指数(WBGT: Wet-bulb Globe Temperature: 湿球黒球温度)があり、特に高温環境の指標として労働や運動時の予防措置に用いられています。

暑さ指数を用いた指針としては、日本体育協会による「熱中症予防運動指針」、日本気象学会による「日常生活における熱中症予防指針」があり、暑さ指数に応じて表1-1に示す注意事項が示されています。また、夏期には、全国約840地点の暑さ指数の実況値・実況推定値や予測値が「環境省熱中症予防情報サイト」(<http://www.wbgt.env.go.jp/>)で公開されています。また、市民マラソンにおける指針については、Hughson(カナダ)による指針が提案され、アメリカやカナダで用いられています。

暑さ指数について

● 日常生活に関する指針

温度基準 (WBGT)	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
危険 (31°C以上)	すべての生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。 外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒 (28~31°C※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28°C※)	中等度以上の生活 活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休息を取り入れる。
注意 (25°C未満)	強い生活活動で おこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※ (28~31°C) 及び (25~28°C) については、それぞれ28°C以上31°C未満、25°C以上28°C未満を示します。
日本気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より